

初めて  
玉島インター降りてみた!!

良寛さんとこは  
右じやろー。

しのうどん



しのうどんは、岡山県倉敷市の玉島にある曹洞宗の名刹・円通寺の修行僧が江戸時代に食していた「一筋一椀」と呼ばれるうどんの別称です。かの良寛(1758-1831年)もしのうどんを食したとされています。祝い事の際に食たべられたことから「祝麺」とも呼ばれています。



しのうどんの  
工場に  
行ってみた。

江戸時代、名僧・良寛も  
食べたと言われる。  
名前は篠竹に由来し  
もっちりとした食感の幅2センチ  
長さ1メートルの麺が唯一無二

幅広で長いうどんは  
全国ここだけ

ラーメン評論家・大崎 裕史氏

幅2cm、長さ1mのうどんはもちろん初体験。嚙れないのでもくもくしながら口に入れていくが、これは斬新な食べ心地。どこかで経験した記憶をたどればラザニアを思い出した。食べる面白さだけでなく、柔らか食感や寄せ鍋仕立てで食べるのもまた一興。出汁は瀬戸内の煮干しや鰹、昆布などから取ったもので“和風ラザニア”とも言えよう。いろんな食べ方や調理法が可能なんだろうと言える。お邪魔した良寛荘は玉島の街や港が一望できる景観も素晴らしい。

おすすめ  
Photo  
スポット



円通寺

倉敷市玉島の山上に位置し、石組の庭が広がり、瓦葺きの本堂が配置された境内は、別世界の空気が流れているように感じられます。奈良・天平時代から観音信仰のあった地に、災害や疫病の多かった江戸・元禄時代に開創され、玉島の港町を見守って来た曹洞宗の寺で「良寛さん」と親しまれる良寛禅師が全国を行脚中、22歳頃から10数年間修行したことで知られています。春の桜の開く時期に「良寛茶会」が行なわれるほか、毎週日曜の早朝、座禅体験が出来ます。

玉島だるま・  
虎製造所



ここにも  
さんじゅーろー  
あった!

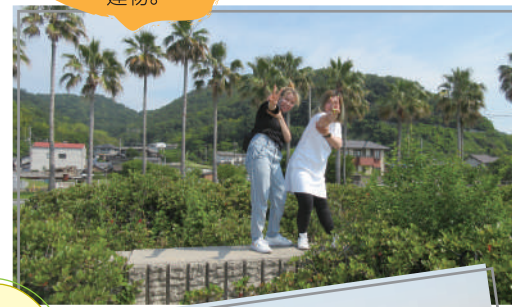


若き日の「良寛さん」が修行した  
曹洞宗の寺



みなと湯

倉敷市玉島の  
古い街区の一部に  
昭和初期に建てられた  
銭湯が残されています。  
銭湯らしからぬ洋風  
建物。



あーちに  
水島コンビナート  
みえるんよ!



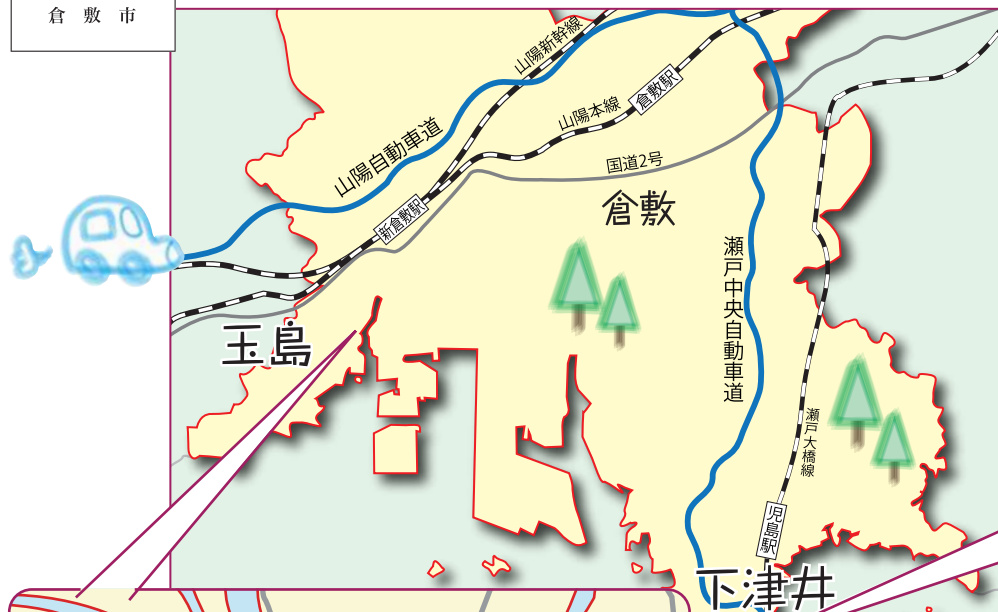
沙美海水浴場



日本遺産  
倉敷市

## 荒波を越えた男たちの夢が紡いだ

江戸時代、北海道・東北・北陸と西日本を結んだ西廻り航路は経済の大動脈であり、この航路を利用した商船は北前船と呼ばれました。北前船は、米をはじめとした物資の輸送から発展し、船主自身が寄港地で仕入れた多種多様な商品を、別の寄港地で販売する買い積み方式により利益をあげたことから「動く総合商社」と形容されています。日本海や瀬戸内海沿岸に残る数多くの寄港地・船主集落は、北前船の壮大な世界を今に伝えています。



### 玉島町並み保存地区

北前船と高瀬舟の水運により、干拓地で栽培された備中綿を売買する拠点となった。問屋が建ち並び、「西の浪速」と呼ばれるほど繁栄した港町。



### 羽黒神社

羽黒神社は江戸時代の玉島干拓のために備中松山藩主が建てた鎮守。北前船船主が航海安全を祈願して奉納した。船給馬や玉垣が残る。



### 旧柚木家住宅(西爽亭)

備中松山藩に仕えた玉島の庄屋。北前船船主でもあった柚木家の旧宅。江戸中期の建築であり、往時の港町の繁栄を見ることができる。

## 異空間～北前船寄港地・船主集落～

### 〇山を仰ぐ港と山に抱かれる港

北前船が寄港する港は、立地から見ると大きく二つに分けられます。

山を借景として大きな川の河口に位置する「山を仰ぐ」港

山と海の間のわずかな平地に位置する「山に抱かれる」港

### 〇一攫千金・のこぎり商いが育んだ港町

押して引いて木を切るのこぎりのように行きも帰りも商売をする北前船は「のこぎり商い」とも呼ばれました。一航海千両、と言われた北前船が生み出す富は莫大であり、経済的繁栄をもたらしました。回船問屋や商家、蔵など、大規模な建物が残され、町は小路に沿って家が軒を連ね、小路はそのほとんどが海に向かう特徴的な町割りを見せています。

### 〇北前船が帆を上げて現代に残した文化交流

天候に左右される北前船の航海は、「風待ち」という文化により、出港まで料亭や茶屋などでの一時の出会いと別れ、そこで唄われる民謡など各地の芸能が船乗りたちによって伝わっていきました。

和食の「昆布だし」食文化も生まれました。日本のだし文化として和食の基本になっています。他には凍結に強い赤瓦が運ばれたことにより、北国の防災力が向上、綿の肥料となるニシンや古着が行き交うことにより、衣服の質が良くなりました。北前船は日本人の衣・食・住の生活環境向上に大きな役割を果たしたのです。



### 下津井町並み保存地区

瀬戸内海に面する港町で、江戸時代には北前船による綿花、ニシン粕の取引港として、また讃岐金毘羅参りの宿場町として繁栄した。



### むかし下津井回船問屋

明治時代の回船問屋を改修した資料館。北前船の寄港地として賑わった下津井に関する資料が展示され、往時の商家の繁栄ぶりがうかがえる。



### 下津井節

港町下津井に伝わる岡山県を代表する民謡。北前船の船頭達によって広まり唄い継がれてきた。唄い手日本一を決める全国大会が毎年行われている。



### 祇園神社

下津井の町並みの西、海の突き出す岬の丘の上に「下津井の祇園さま」が鎮座する。玉垣には、海の守護神に航海の安全を祈願した北前船船主の名が刻まれている。多くの歌人や小説家も訪れ、境内付近には下津井や瀬戸内を詠んだ歌碑も数多くある。

祇園神社からの瀬戸大橋は絶景!!

<https://www.city.kurashiki.okayama.jp/kura-story/>